

# 支所廃止や学校統廃合の狙いは鉄道高架のため？

コア鳥取で行われた鉄道高架に関する市民説明会に参加してきました。

鉄道高架の説明会は  
市長・副市長が参加

この説明会には、蝦名市長、伴副市長、二人の部長に担当室長と、市の力の入れようは半端ありません。最後に市長は「大きな課題が出てきたときには、何かあれば市から説明に行きます」とリップサービス。鉄道高架のことなら少人数であろうと何処にでも説明に行くと言いながら、支所の問題で多くの人から「なぜ市長は説明に来ないのか」と責められても、一切ダンマリ。

鉄道高架にすれば、  
街はにぎわう？  
その根拠はない

確かにこれまでの、車中心のまちづくりのゆがみもあると思います。旭・北中のご線橋も老朽化しています。

でも、鉄道高架にしたら、大型店が相次いで出店したり、北大通を散策する人が突然、増えたりするのでしょうか。市役所や市民文化会館の移転が呼び水になるのでしょうか。「人と公共交通中心のまちづくり」

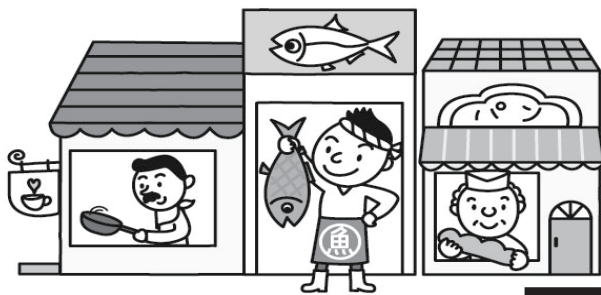
私は市長のこうした姿勢こそ問題だと思えます。反対の声が多くても、市民の切実な声に耳を傾けるのが市長の仕事だからです。

しかも、望んで参加したはずのこの説明会でも、関西から長期滞在を経て移住された女性に、「駅の乗降客はとも少ない。それなのにどうして駅を中心とする街づくりで、こんなにこだわるのですか？私はこの頃、鉄道高架をどう思いますかと真っ先に聞いています。99パーセントの人が反対です。高架にするなら30年前でしょとも言われます。もつと市民の声を聞くべきではないですか」との厳しい注文も付きました。

とか「ウォーカーブル都市構想」と言いますが、これは国交省が全国に大号令をかけている新しいタイプの都市開発政策で、何も釧路市の専売特許ではありません。全国で同じような街づくりを競い合っているだけのこと。そこには釧路市の独創性も強みありません。逆に、厳冬のきびしさというマイナスがあるだけです・・・

全国の競争のなかで釧路市が確実に「勝ち組」になれるのか。その根拠は全く示されません。このままでは、北大通の車道は狭くして歩道を広げた、「L字型のバス

専用道路も駅前にできた。市民文化会館も駅前に移した。しかし、街には、にぎわいは戻らなかったとなるのではないのでしょうか。



外から来るのを期待する  
のではなく、市民こそ主人  
公のまちづくり

本当の市民の声が見えていないのが、市のプランの根本的な問題です。市民が集うために広い歩道は必要ですか？駅周辺は通過車両ばかりで困るといふなら、通過車両を規制すればいいだけで、鉄道高架にしたり、歩道を広げる必要はありません。

空き店舗が多すぎることが北大通の一番の問題なのですから、市民・事業者が北大通で出店できる仕組みをつくり、活用すればいいのです。来るかどうかもわからない大型店を

目当てに、莫大なお金をかけて、借金だけ残してどうするのでしよう。

鉄道高架の巨費こそ、  
市民目線のまちづくり

市長は鉄道高架を造っても市民負担が増えないように、公共施設の集約化をして、市民負担を抑えて、その分を鉄道高架に回していくと説明しました。

簡単に言えば、いまやろうとしている支所の廃止も学校統廃合も、元をただせば、鉄道高架の財源の捻出のためだということですよ。

市民と子どもにしわ寄せしても、「鉄道高架ありき」、たまったものではありません。

防災の視点を生かしたと言いますが、大津波が来たら、中心市街地は壊滅的な被害を受けることを、どう考えているのでしょうか？

駅前が高い建物も多く、鉄道高架がなくとも避難できる場所は十分あることは市長も認めています。

逆に鉄道高架にするので「車で逃げてください」と言わんばかりの施策は、渋滞によって多くの人命を失うことにもなりかねません。

鉄道高架の財源で、大楽毛や星が浦、鳥取や昭和に津波避難タワーをつくることの方が、よっぽど防災のためになります。

市民球場で行われたプロ野球の試合が、7回で日没コールドゲームになりました。こんなことでは、市民が楽しみにしている釧路でのプロ野球の試合そのものが無くなってしまいます。鉄道高架だと大騒ぎする前に、ナイター設備ぐらい、すぐつくってほしいと思っている市民は多いのでは・・・

